

阿武隈川上流遊水地群整備事業

令和元年東日本台風により阿武隈川流域全体で甚大な被害が発生したことを踏まえ、国土交通省では「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」に基づき、玉川村、鏡石町、矢吹町に、約 350 ヘクタール（東京ディズニーランドの約 7 倍）に及び大規模な遊水地群（阿武隈川上流遊水地群）の整備を進めています。

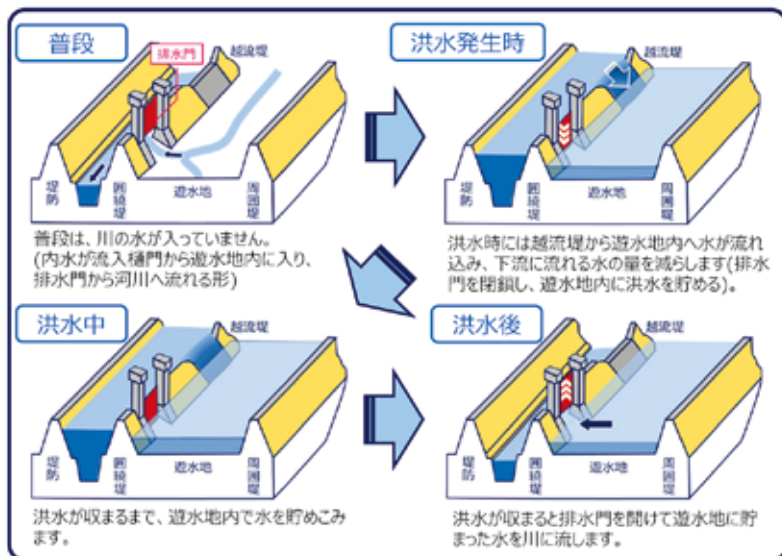
遊水地は、洪水で川の水が増えた際、その水を一時的に貯め込み、川の水位を下げることで下流域における浸水被害等を軽減するもので、阿武隈川上流遊水地群の整備により、郡山市の阿久津水位観測所（富久山町）付近では、河道掘削による効果と合わせて洪水時に約 0.8m 水位が低下すると見込まれています。

令和 15 年度の完成を目指し、令和 4 年 10 月から用地協議等が進められており、令和 7 年度には架け替えする橋梁や排水門、家屋の集団移転先となる代替地の工事が開始される予定となっています。また、完成後の遊水地内の利活用が課題であることから、阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会（国、県、3 町村及び有識者等）を中心に、地域振興にも資する活用方法の検討が進められており、農地利用に関する検討では、実現可能性を調査（水稻の品質・収量など）する試験栽培も行われています。

遊水地群全体計画図（令和 7 年 4 月現在）



遊水地のしくみ



遊水地内利活用に向けて

遊水地内利活用の 1 つとして検討されている農地利用は、遊水地内の掘削した断面に作土を敷いたほ場での営農となることから、農地の適性などの技術的課題を調査するため、第二遊水地予定地の一角に試験ほ場（水田・約 42 a）を整備し、令和 7 年春から水稻の試験作付けが始まっています。

遊水地内と同じ掘削面に作られた試験ほ場ではコシヒカリが作付けされ、生育状況や品質、収量等を通常の水田と比較して調査していきます。

